

confa

北海道農業・農村情報誌
【コンファ】

2003春号
VOL.15

農業と、話をしよう。

特集

農を変える女性パワー

エッセイ 服部幸應

シェフが行く!おいしい田園散歩 和寒町・剣淵町・士別市

北の大地のめぐみたち キャベツ・白菜

あぐり情報館 グリーン・ツーリズム

楽しみながら作ろう、食べよう、学ぼう

札幌市(丘珠) 食と農の親子体験

大地のがっこう



「きたしま遊々ファーム」は、
農作業や収穫、調理、加工などを通じて
食の大切さや生命の尊さを学ぶ親子体験農場。
初夏から秋の土と触れ合う体験を経て、
冬はいよいよ加工に挑戦。
親子が共に学ぶ講習会が開かれました。

石狩支庁
札幌市

親子で挑戦。うまく固まるかな…。豆乳を温めかき混ぜているときから、胸がドキドキ。



「きたしま遊々ファーム」に参加した子供が描いた絵。

農作業を通じて子供たちに豊かな感性と知恵を育んでもらいたい。「きたしま遊々ファーム」は、郷土の歴史を次世代に伝えるNPO法人「札幌村文化センター」が、札幌市東区丘珠町で農業を営む北島英司さんの協力を得て、昨年、誕生させました。「農作業を親子で体験しませんか」と広く呼びかけたところ、十六組ほどの親子が参加。

作物や土に触れるだけでなく、専門家から話を聞いたり、調理や加工などさまざまな体験を通じて、じっくりと農や食への理解を深めていくのが大きな特色。初夏から秋にかけては、じゃがいもや大豆、とうもろこしなどの農業体験を行い、冬場は食品加工やクラフトに挑戦します。



豆腐作りはもちろん、豆腐に関する話にも熱心に耳を傾ける参加者たち。

固まるか？固まらないか？ ドキドキの豆腐作り

昨年十月に開催したのが手作り豆腐の講習会。講師はマル美エンドウフーズ株式会社の遠藤一彦さん。原料の大豆や凝固剤、豆腐の種類などについて説明を受け、絹豆腐作りがスタートしました。

絹豆腐といっても、絹はどこにも見当たりません。「豆乳に凝固剤を入れて固めたのが絹豆腐、凝固させたあと圧力を加えて水切りしたものが木綿豆腐。感触の違いから名付けられたと思われる」という説明に、うなずく参加者。

「豆腐作りの楽しさと同時に難しさも勉強しよう」と、一回目は失敗の少ない合成の凝固剤を、二回目は「初心者成功率は5%」といわれる天然の「にがり」を使用することになりました。

鍋に豆乳を入れて熱し、焦げ付かないようにかき混ぜている間、みんなの視線は豆乳の渦に集中。凝固剤を入れるタイミングや、しゃもじを逆回転させて



講習に加わり、子供たちと感動を共有する
「札幌村文化センター」代表の土肥信子さん。

作る速さは子供が二歩リード 親子で麦わら細工

渦を消すときなど、大事なところでは、子供よりも大人の方が緊張感があります。一回目は十三ある鍋のほとんどが成功。二回目はやはり難しく、遠藤さんに合格点をもたらした鍋は一つきり。見栄えはイマイチだった豆腐も味は上々で、「わー、おいしいー」という声の方々から上がりました。

作業の合間に遣伝子組み換え作物、環境ホルモンなどに関する話もあり、熱心に質問したり、メモを取る親の姿からも、子供たちは多くを学んだようです。

今年一月には、J.A.さっぽろ女性部篠路支部で活躍する小向操さんを講師に、麦わら細工の講習会を開催。麦の生育や昔食べたうどんの味などを語り合いながら、ごく自然に一輪挿し作りが始まりました。

ナイフを使う場面で経験の差が出た以外は、親も子も同級生。小向さんの説明に耳を傾け、手を休めることなく黙々と作業を進めます。のどかな休日、我が家で母が子に麦わら細工の手

ほどきをしていくかのよう。
「だんだん細くなって、花を入れるところがなく

6月下旬、「ホー」を使ってじゃがいもの根元に土寄せをする親子。



なっちゃった！」と叫んだ小学生の男子は、やり直しをして真つ先に完成。子供たちが次々に完成させていく中、お母さんたちは真剣な表情でラストスパートをかけています。早くできた子も席を立つことなく、麦わらの匂いをかいだり、残った麦わらを編んでひもを作ったり、セロハンテープを使って麦わらの花を作ったり…。こうした子供の感性や創造力に、大人が刺激を受けることも狙いの一つです。

子供と大人が共に喜び、高め合う

「札幌村文化センター」代表の土肥信子さんは、郷土史を掘り起こす活動をしていく中で、農業や郷土史が持つ教育力に着目し、その具体化に努めてきました。

「土や、わらの感触は一度体験したら忘れませんし、芽が出る喜び、収穫する喜び、食べる喜びは経験して分かるもの。ある子が「じゃがいもの花の下の方を触ると、ふかふかして気持ちいいよ」と教えてくれたのですが、こんなのは本当に体験しなければ分かりませんよね。

感性の柔らかい子供のうちには、多くの農業体験をしてほしいんです」と熱い思いを語ります。さらに「みんなで総合的に学ぶことができ

るのは、北島さんをはじめ、地域の方々や行政のご尽力があればこそ。ネットワークの重要性を痛感しています」とも。

札幌市の小学生の現地学習や海外からの留学生の作業体験など、学習の場を提供してきた北島さんは、百年以上続く玉ねぎ農家。「お子さんたちが体験することで、親御さんも関心を持つようになり、食の安全を守り、健康的な食生活を営むには何が大切なのか、理解を深めてもらいたい」と、親子で農業体験することの意義を強調します。

ある少年は「オレの遊々ファーム」と言い、お母さんと楽しい思い出を振り返ったそう。そして、子供と一緒にさまざまな体験をして農や食への関心を強めたお父さん、お母さんたち。

「きたじま遊々ファーム」で芽吹いた学びの芽の生育状況はさわめて良好なようです。



麦わら細工は難しいけど、面白い。コツをつかみ手早く仕上げる男の子。

ほ場の提供など、活動に協力している北島英司さん。



お問い合わせ NPO法人札幌村文化センター ☎011-782-1130